

2:26 それから、王は祭司エブヤタルに言った。「アナトテの自分の地所に帰れ。おまえは死に値する者だが、今日はおまえを殺さない。おまえは私の父ダビデの前で【主】である主の箱を担ぎ、父といつも苦しみをともにしたからだ。」

2:27 こうして、ソロモンはエブヤタルを【主】の祭司の職から追放した。シロでエリの家族について語られた【主】のことは、こうして成就した。

2:28 この知らせがヨアブのところへ伝わった。ヨアブはアブサロムにはつかなかったが、アドニヤについていたのである。ヨアブは【主】の天幕に逃げ、祭壇の角をつかんだ。

2:29 ソロモン王に「ヨアブが【主】の天幕に逃げて、今、祭壇の傍らにいる」という知らせがあった。するとソロモンは、「行って彼を討ち取れ」と命じて、エホヤダの子ベナヤを遣わした。

2:30 ベナヤは【主】の天幕に入って、彼に言った。「王がこう言われる。『外に出よ。』」彼は「いや、ここで死ぬ」と言った。ベナヤは王にこのことを報告した。「ヨアブはこう私に答えました。」

2:31 王は彼に言った。「彼が言ったとおりにせよ。彼を討ち取って葬れ。こうして、ヨアブが理由もなく流した血の責任を、私と、私の父の家から取り除け。」

2:32 【主】は、彼が流した血を彼の頭に注ぎ返される。彼は自分よりも正しく善良な二人の者に討ちかかり、剣で虐殺したからだ。彼は私の父ダビデが知らないうちに、イスラエルの軍の長である、ネルの子アブネルと、ユ

ダの軍の長である、エテルの子アマサを虐殺したのだ。

2:33 二人の血は永遠にヨアブの頭と彼の子孫の頭に注ぎ返され、ダビデとその子孫、および、その家と王座には、とこしえまでも【主】から平安があるように。」

2:34 エホヤダの子ベナヤは上って行き、彼を打って殺した。ヨアブは荒野にある自分の家に葬られた。

2:35 王はエホヤダの子ベナヤを彼の代わりに軍団長とした。また、王は祭司ツァドクをエブヤタルの代わりとした。

ソロモンはエブヤタルを罷免し、ヨアブを処刑しました。王国には、悪事を働きながら罪を悔い改めない有力者が残っていると、後にまた命が奪われる危険があるからです。

彼らはダビデの時代には安心していたので、悔い改める必要を感じなかったのですが、そのような安心はいつまでも続きません。神様は必ず罪に報いる方ですから、今がだいじょうだからといっていい加減にすることなく、正しく悔い改める必要があります。

またソロモンのように、将来を考えて、正しいことを断行する必要もあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

